



東海自動車工業株式会社

2016年度 環境活動レポート

(2016年4月～2017年3月)

発行

2017年9月

確認	作成
望月	小泉

東海自動車工業株式会社

環境方針

<環境理念>

私たちは、ますます深刻化する地球温暖化や、今後予想される地下資源の枯渇への対応が人類共通の重要課題との認識にたち、自動車整備・販売等の事業活動において、持続可能な人にやさしく、地球にやさしい社会の実現を目指すことにより、環境負荷の低減を図るために、全社一丸となって自主的・積極的に、環境保全活動に取り組みます。

<環境保全への行動指針>

1. 地球温暖化防止のため、二酸化炭素の削減に取り組みます。
自社における電力・燃料消費に伴う二酸化炭素排出量の削減に取り組みます。
 2. 資源の有効利用のため、廃棄物の削減に取り組みます。
 - ① 事務所での一般廃棄物の削減と分別廃棄を可能な限り努めます。
 - ② 自動車整備業務に伴う産業廃棄物について、分別回収による資源の有効利用に努めます。
 3. 水資源の有効利用のため、節水に取り組みます。
 - ① 自動車整備業務の洗車・工場清掃時に使用する水の節水に努めます。
 - ② 事務所での節水に努めます。
 4. 地球環境保全のため、自動車整備において環境に配慮した整備に取り組みます。
 5. 循環型社会推進のため、グリーン購入やグリーン調達を推進します。
 6. P R T R法を遵守し、化学物質の管理を行います。
- これらについて、環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。
7. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
 8. 環境への取り組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。

制定日：2009年3月31日

改定日：2015年5月20日

東海自動車工業株式会社
代表取締役社長

長野 高幸

□登録事業所の概要

(1) **事業所名及び代表者名**

東海自動車工業株式会社
代表取締役社長 長野 高幸

(2) **所在地**

本社及び静岡支店：静岡県静岡市駿河区国吉田二丁目1番11号 2010年4月9日より認証・登録

TEL 054-263-1122

FAX 054-263-8523

藤枝支店： 静岡県藤枝市南新屋239 2014年4月9日より認証・登録

TEL 054-641-2525

FAX 054-644-8775

吉田支店： 静岡県榛原郡吉田町住吉780-1 2014年4月9日より認証・登録

TEL 0548-32-1391

FAX 0548-32-2374

(3) **環境管理責任者氏名及び担当者連絡先**

責任者 管理本部 望月隆弘 TEL：054-263-1122

担当者 総務部 小泉 浩 TEL：054-263-1122

(4) **事業内容(認証・登録の範囲)**

自動車の整備加工・販売・関連商品販売・賃貸・管理請負, 保険代理店業務並びに電機機械器具・通信機械器具・事務用機械器具の販売修理業

(5) **事業の規模**

売上高 38億円 (2016年4月～2017年3月)

	本社	静岡支店	藤枝支店	吉田支店	合計
従業員	41名	77名	43名	24名	185名
延べ床面積	4,053㎡		2,671㎡	2,199㎡	8,923㎡

(6) **事業年度** 当年4月～翌年3月

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：東海自動車工業株式会社

活動： 自動車の整備加工・販売・関連商品販売・賃貸・管理請負, 保険代理店業務並びに電機機械器具・通信機械器具・事務用機械器具の販売修理業

□主な環境負荷の実績

静岡地区(本社及び静岡支店)

電力co2排出係数=0.482

項目	単位	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /年	363,716	386,405	389,628	369,120	352,155
廃棄物排出量	kg/年	222,460	154,390	180,830	181,250	216,460
一般廃棄物量排出量	kg/年	4,490	2,210	2,520	2,220	2,220
産業廃棄物排出量	kg/年	217,970	152,180	178,310	179,030	214,240
総排水量	m ³ /年	4,261	4,671	4,264	4,434	4,241

* 2010年4月9日より適用対象

藤枝地区(藤枝支店)

電力co2排出係数=0.482

項目	単位	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /年		188,887	182,313	172,745	170,954
廃棄物排出量	kg/年		5,800	5,300	7,400	4,800
一般廃棄物量排出量	kg/年		0	0	0	0
産業廃棄物排出量	kg/年		5,800	5,300	7,400	4,800
総排水量	m ³ /年		1,401	1,539	2,151	1,001

* 2014年4月9日より適用対象

吉田地区(吉田支店)

電力co2排出係数=0.482

項目	単位	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /年		74,300	72,242	79,721	75,488
廃棄物排出量	kg/年		1,588	1,743	2,204	1,896
一般廃棄物量排出量	kg/年		0	0	0	0
産業廃棄物排出量	kg/年		1,588	1,743	2,204	1,896
総排水量	m ³ /年		107	119	111	160

* 2014年4月9日より適用対象

静岡地区

環境目標及びその実績

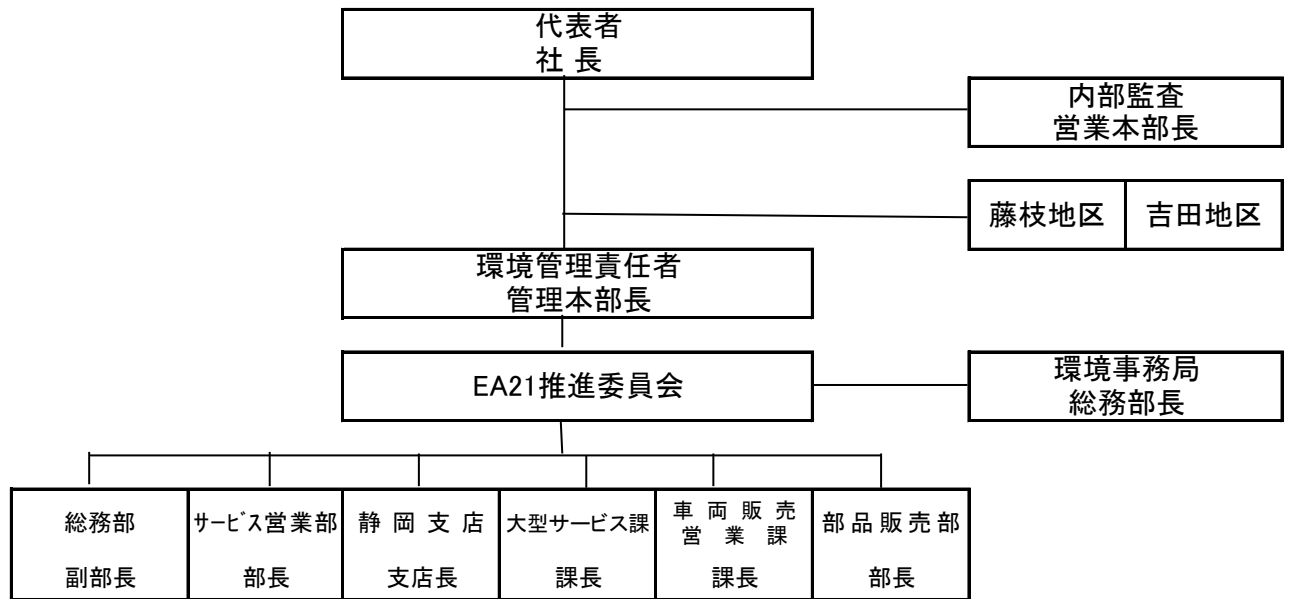
項目		2015年度	2016年度		2017年度	2018年度	2019年度
		(実績) 基準年度	(目標) 基準年度比	(実績) 新基準	(目標) 新基準年度比	(目標) 新基準年度比	(目標) 新基準年度比
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂ 排出係数換算 2015年度以降 0.482	200,821	198,813	194,792	192,844	191,870	190,896
			99.0%	新基準	99.0%	98.5%	98.0%
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	168,299	166,616	157,363	155,789	155,003	154,216
			99.0%	新基準	99.0%	98.5%	98.0%
二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	369,120	365,429	352,155	348,633	346,873	345,112
			99.0%	新基準	98.5%	98.0%	98.0%
一般廃棄物の削減	(kg/年)	2,220	2,209	2,220	2,209	2,198	2,187
			99.5%	新基準	99.5%	99.0%	98.5%
産業廃棄物の削減	(kg/年)	179,030	178,135	214,240	213,169	212,098	211,026
			99.5%	新基準	99.5%	99.0%	98.5%
節水	(m ³ /年)	4,434	4,412	4,241	4,220	4,199	4,177
			99.5%	新基準	99.5%	99.0%	98.5%
環境配慮の整備・製品の販売促進 E C Oバッテリー	(個/年)	356	392	649	725	746	779
			110.0%	新基準	110.0%	115.0%	120.0%
グリーン購入	(千円)	11,496	11,611	12,796	12,924	13,180	13,180
			101.0%	新基準	101.0%	102.0%	103.0%
化学物質の適正管理	(kg/年)	455	451	444	439	399	355
			99.0%	新基準	99.0%	90.0%	80.0%

(注) 二酸化炭素にLPG, 灯油は入っていません。

各項目の取組として基本的な取組のほか、電力の削減においては、小型サービス工場へのLED照明の追加導入や本社屋のエアコン差替え、省電力装置の導入により、今年度も電力削減目標を達成することができ、自動車燃料の削減においても、エコカーの導入や営業車にドライブレコーダーを取付、安全教育を実施することで、安全運転への意識、燃費向上意識が高まり、削減目標を達成することが出来ました。産業廃棄物の削減においては、業務量の増加に伴いゴミの分別や再利用による削減を試みるも、目標数値の達成に至らなかった。

東 海 自 動 車 工 業 株 式 会 社 環 境 経 営 シ ス テ ム 組 織 図

静岡地区



	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任。 ・環境経営システムの実施に必要な、要員、設備、費用等を承認。 ・環境管理責任者を任命。 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認。 ・代表者による全体の評価と見直しを実施。 ・環境活動レポートの承認。
環境活動責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理。、 ・環境経営システムの実施に必要な、要員、設備、費用等を準備。 ・環境関連法規等の取りまとめ票を承認。 ・環境目標・環境活動計画書を確認。 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告・ ・環境活動レポートの確認。
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局。 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施。 ・環境目標、環境活動計画書原案の作成。 ・環境活動の実績集計。 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施。 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。 ・環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営システムの実施。 ・自部門における環境方針の周知。 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告。 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 テスト、訓練を実施、記録の作成。 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施。
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

環境活動の取り組み計画と評価

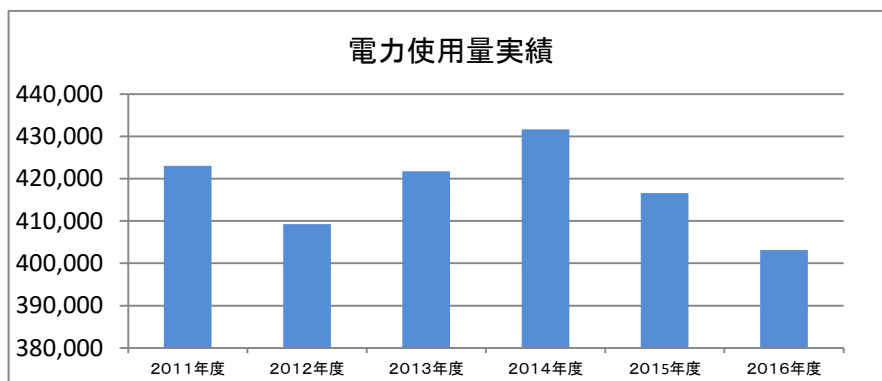
静岡地区

取り組み計画	次年度取組 (継続=○取 止め×)	評価 (結果と次年度の取り組み内容)
電力の削減 <ul style="list-style-type: none"> ・室内エアコンは、夏28℃、冬20℃を原則とする ・電気器具の差替は省エネタイプの機器の導入 ・クールビズ・ウオームビズ運動 (継続) ・昼休み未使用時の消灯の徹底 ・「節電」ステッカーによる節電意識の徹底 ・作業効率向上による総労働時間の削減 	○	<p style="text-align: center;">目標達成</p> <p>省エネタイプエアコンや照明機器を導入、効果を出すことができた。総労働時間の削減においては、個々の作業時間を計測、その平均作業時間を基準とし指導してきた、技術レベルの向上には効果が出たものの、仕事量が増えたこともあり、総労働時間の大幅な削減は図れず。課題として来期は受入や作業指示、工程管理精度を上げ作業員と管理部門との連携強化・業務効率向上を図る。</p>
自動車燃料の削減 <ul style="list-style-type: none"> ・ドライブレコーダーの装着・運転指導 ・エコカーの導入 ・アイドリングストップの励行 ・代車燃料の管理 	○	<p style="text-align: center;">目標達成</p> <p>営業車両にドライブレコーダーを装着、安全運転指導を実施し、安全運転意識の向上による燃費向上と事故削減ができた。次年度は旧年式車両をエコカーに差替え削減計画を進めていく。</p>
一般廃棄物の削減 <ul style="list-style-type: none"> ・裏紙使用、ミスコピーの防止 ・分別による古紙のリサイクル ・会議資料の削減 ・メール使用推進 ・トリクルの積極的使用 	○	<p style="text-align: center;">目標達成</p> <p>今年度の取組である、「会議などの添付資料は、必要最小限に情報等の集約をして削減する」ことができなかった。裏紙使用においては、形骸化されつつあり削減効果としては鈍ってきている。次年度は、会議事前の情報共有手段をデータで行い、当日配布する書類の削減を図っていく。また、文書管理の厳密化を図り文書コピー枚数の削減を図る。</p>
産業廃棄物の削減 <ul style="list-style-type: none"> ・社内での再使用 ・リサイクル先の開拓 ・分別回収 ・3Rの推進 	○	<p style="text-align: center;">目標未達成</p> <p>損害保険会社との情報共有を図り、事故修理の際、リサイクル部品の有効活用と再生を進めて来たが、一般整備におけるリサイクル部品の使用の伸びが鈍い。来年度も引き続き、販売ツールを活用してお客様への斡旋を進めていく。また、分別回収への取組も進めていく。</p>
節水 <ul style="list-style-type: none"> ・節水の呼びかけ ・節水弁の取り付け ・水弁取替時に自動水弁を検討する ・洗車、工場清掃時の節水 	○	<p style="text-align: center;">目標未達成</p> <p>節水タイプの洗車機を導入し使用量削減に取り組んできた。また、日々の取組として、洗濯機使用の際の節水にも務めてきたことで、目標を達成することができた。次年度も引き続き不必要な水の垂れ流しをしない、させない節水活動を継続していく。</p>
ECCOバッテリーの販売 <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットの作成 ・客先へのPR ・ホームページへの掲載 ・車検点検時アピール 	○	<p style="text-align: center;">目標達成</p> <p>新商品の勉強会を実施、正しい商品知識の基、お客様へ正しい情報の提供による販売推奨を推し進めてきたことで、目標を大幅に超える実績を出すことができた。今年度は、他支店でも取り組みを強化していく。</p>
グリーン購入 <ul style="list-style-type: none"> ・エコマーク商品から購入する ・中古部品購入額を集計指標する 	○	<p style="text-align: center;">目標達成</p> <p>お客様の了解のもと推奨販売を継続実施してきたことで、ほぼ目標を達成することができた。良質な中古部品の入手経路の拡充により安定供給ができています。次年度も良い品をより安価に提供できるよう努めていく。</p>
化学物質の適正管理 <ul style="list-style-type: none"> ・PRTR法の遵守 ・PRTR法に係る化学物質の実績集計 	○	<p style="text-align: center;">目標達成</p> <p>化学物質が含まれない塗料への移行を進めてきた結果、大幅な削減を実現することが出来た。次年度も継続していく。</p>

□環境活動実績年度別推移
静岡地区

* 電力使用量

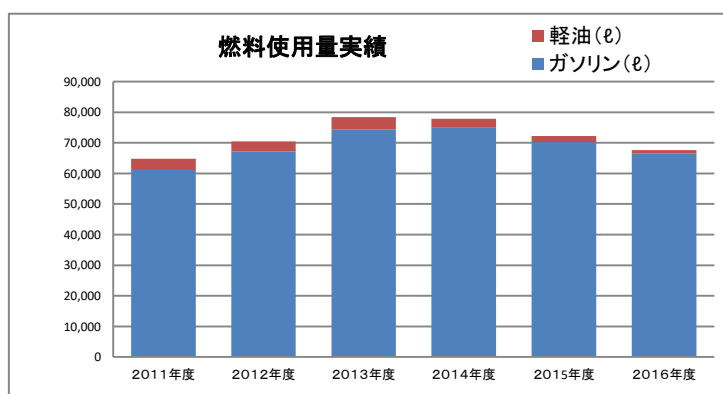
年度	使用実績 (KW)
2011年度	423,065
2012年度	409,285
2013年度	421,722
2014年度	431,702
2015年度	416,641
2016年度	403,133



作業の増加に伴う増加を抑制する為、作業時間の計測による作業の標準化に努めてきた。また、前年度同様、工場へのLED電球の導入と本社屋の省電力型エアコンシステムの導入を進めてきたことで、結果がでている。次年度も本社屋の省エネタイプのエアコンの導入と水銀灯から無電極ランプへの交換を計画している。

* 燃料使用量

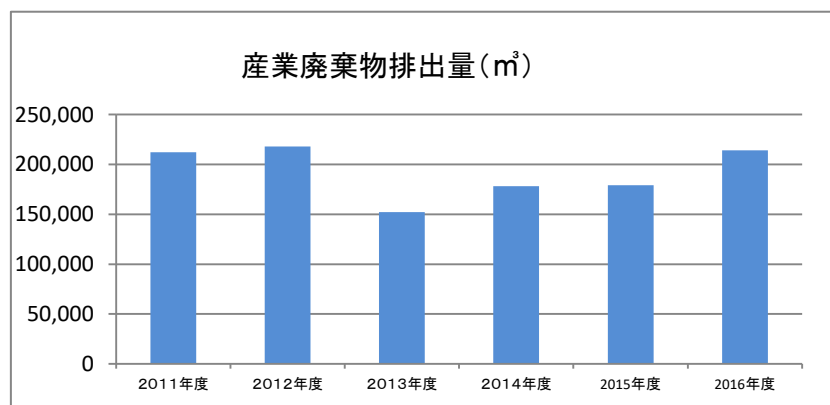
年度	ガソリン (ℓ)	軽油 (ℓ)
2011年度	61,164	3,618
2012年度	67,164	3,249
2013年度	74,426	3,995
2014年度	74,992	2,888
2015年度	70,239	2,040
2016年度	66,458	1,214



営業活動の増加による増加傾向から脱却するため、アイドリングストップや急発進急加速の防止等の活動に加えて、ドライブレコーダーの装着による安全運転への取組をしてきてことにより年々削減傾向となっている。更に、安全運転指導を継続実施することで、事故の削減にもつながりつつある。次年度も、安全運転意識、燃費向上意識の改善に努めていく。

* 産業廃棄物排出量

年度	排出量 (m ³)
2011年度	212,270
2012年度	217,970
2013年度	152,190
2014年度	178,310
2015年度	179,030
2016年度	214,240



産業廃棄物の排出については、業務増に伴い2013年度を底辺に増加傾向にある。安全衛生委員会などをつうじて社員意識の向上を図り、再使用、引取り業者においても、廃棄ではなく再資源化ができている取引業者に変えるなどの取組をしている。グリーン購入の一環として中古部品の取扱は増加傾向にあるが、法人顧客への理解は得ているものの、一般顧客への斡旋推進が課題となっている。次年度は一般ユーザー向けの販促ツールによる更なる拡販を押し進め目標達成につなげたい。

藤枝地区

□環境目標及びその実績

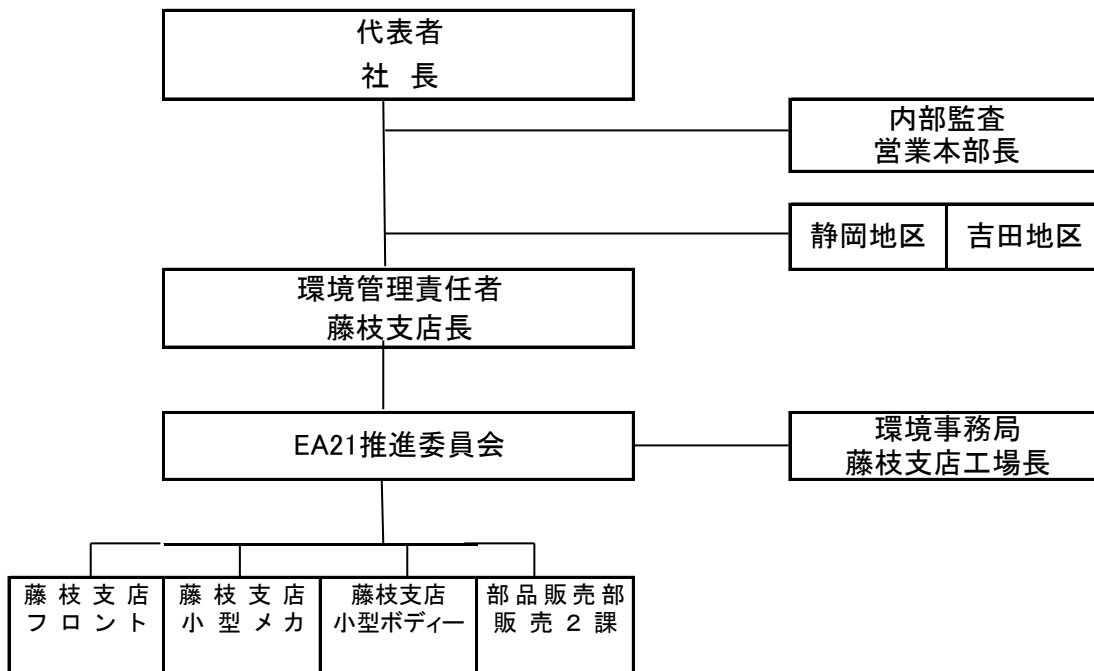
項 目		2015年度	2016年度		2017年度	2018年度	2019年度
		(実績) 基準年度	(目標) 基準年度比	(実績) 新基準	(目標) 新基準年度比	(目標) 新基準年度比	(目標) 新基準年度比
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂ 排出係数換算 2015年度0.482	71,166	70,454	71,811	71,093	70,734	70,375
			99.0%	新基準	99.0%	98.5%	98.0%
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	10,579	100,564	99,143	98,152	97,656	97,160
			99.0%	新基準	99.0%	98.5%	98.0%
二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	81,745	171,018	170,954	169,245	168,390	167,535
			99.0%	新基準	99.0%	98.5%	98.0%
産業廃棄物の削減	(kg/年)	530	525	740	733	729	725
			99.5%	新基準	99.0%	98.5%	98.0%
節水	(m ³ /年)	1,310	1,297	1,000	990	958	980
			99.5%	新基準	99.0%	98.5%	98.0%
グリーン購入	(千円)	10,356	10,460	12,099	12,220	12,341	12,462
			101.0%	新基準	101.0%	102.0%	103.0%
化学物質の適正管理	(kg/年)	95.8	94.9	25.6	25.3	23.0	20.5
			99.0%	新基準	99.0%	90.0%	80.0%

(注) 二酸化炭素にLPG, 灯油は入っていません。

従業員の取組意識も高まりつつあるが、電力使用量において目標未達となった。要因としては、「①業務の増加に伴う残業作業の増加。」「②設備のエコ商品への差替えが進んでいない。」などがあげられる。静岡支店同様作業時間の計測による作業の標準化による作業効率の向上に努めいく。また、設備において、計画的導入を押し量っていく。グリーン購入は増加傾向にあり、今後も中古部品の推奨をしていく。課題は一般ユーザーへの拡販体制の構築であり、販売する担当への教育も必要とされる。化学物質の適正管理においては、特定化学物質が含まれていない水性塗料に切り替えることで、使用量を大幅に削減することができた。水道水の使用量について、漏水事故による被害を最小限に抑える為、検針時以外に自ら計量メーターを確認することで早期発見に努めてきた。

東海自動車工業株式会社 環境経営システム組織図

藤枝地区



	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任。 ・環境経営システムの実施に必要な、要員、設備、費用等を承認。 ・環境管理責任者を任命。 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認。 ・代表者による全体の評価と見直しを実施。 ・環境活動レポートの承認。
環境活動責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理。 ・環境経営システムの実施に必要な、要員、設備、費用等を準備。 ・環境関連法規等の取りまとめ票を承認。 ・環境目標・環境活動計画書を確認。 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告・ ・環境活動レポートの確認。
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局。 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施。 ・環境目標、環境活動計画書原案の作成。 ・環境活動の実績集計。 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施。 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。 ・環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営システムの実施。 ・自部門における環境方針の周知。 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告。 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 ・テスト、訓練を実施、記録の作成。 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施。
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

口環境活動の取り組み計画と評価

藤枝地区

取り組み計画	次年度取組 (継続=○取 止め×)	評価 (結果と次年度の取り組み内容)
電力の削減 ・室内エアコンは、夏28℃、冬20℃を原則とする ・電気器具の買換時には省エネタイプの機器の導入 ・クールビズ・ウオームビズ運動 (継続) ・昼休みや未使用時の消灯 ・「節電」ステッカーによる節電意識の徹底 ・作業効率向上による総労働時間の削減	○	目標達成 継続的取組をしてきたが結果が伸び悩んでいる。仕事量に伴う作業時間の増加が見られ目標未達となる。次年度は、基本に戻り未使用時消灯など些細な取組から従業員への周知徹底を図っていく。総労働時間削減による電力使用量の削減においては管理職の関与による指導を継続していく。
自動車燃料の削減 ・アイドリングストップ ・急加速、急停車の防止 ・冷暖房の控え目使用 ・燃費のよい車の購入 (更新時)	○	目標達成 今年度もドライブレコーダー装着による安全意識の向上を図るなど、燃費向上への取組を実施してきた。結果が出ていることから次年度も継続していく。車両差し替えの際、中古車導入から低燃費性能に優れたエコカーの導入をしていくこととした。
産業廃棄物の削減 ・社内での再使用 ・リサイクル先の開拓 ・分別回収 ・3Rの推進	○	目標未達成 前年度同様に再利用 (社外への交渉・対応も含めて) に向けて取り組んできた結果、仕事量は増加したが、削減目標を達成することができた。次年度も取引会社との連携を図り、3R活動を推進していく。
節水 ・節水の呼びかけ ・水弁取替時に自動水弁を検討する ・洗車、工場清掃時の節水	○	目標未達成 施設の老朽化に伴い水道管の老朽化も進み、漏水事故の可能性が高く、対策として定期検針時以外に自主検査を実施してきた。また、社員の取組意識の向上から洗車や工場清掃時に使用する水の節約に対する取組も継続してきたことで、計画目標を達成することができた。次年度も地道な取組ではあるが、効果的であることから継続的に実施していく。
SR・ERの販売 ・パンフレットの作成 ・客先へのPR チラシなど ・ホームページへの掲載	×	目標達成 目標を達成することができたが、お客様からのニーズの変化から販売商品自体に魅力が薄れてきている。次年度は新たな取組として、全支店でエコバッテリーの推奨販売をしていくこととした。
グリーン購入 ・エコマーク商品から購入する ・中古部品の活用	○	目標達成 お客様の了解のもと、説明をしっかりと行うことで目標達成することができている。お客様に対しても環境に対しても優しい取組であり、次年度も継続的に取組でいく。
化学物質の適正管理 ・PRTR法の遵守 ・PRTR法に係る化学物質の実績集計	○	目標達成 化学物質が含まれない塗料への移行を進めてきた結果、大幅な削減を実現することが出来た。作業員の健康のためにも継続していく。

SR=車の安全走行記録 (車のフレイトレコーダー)

ER=エンジンリフレッシュ (エコ車検)

吉田地区

環境目標及びその実績

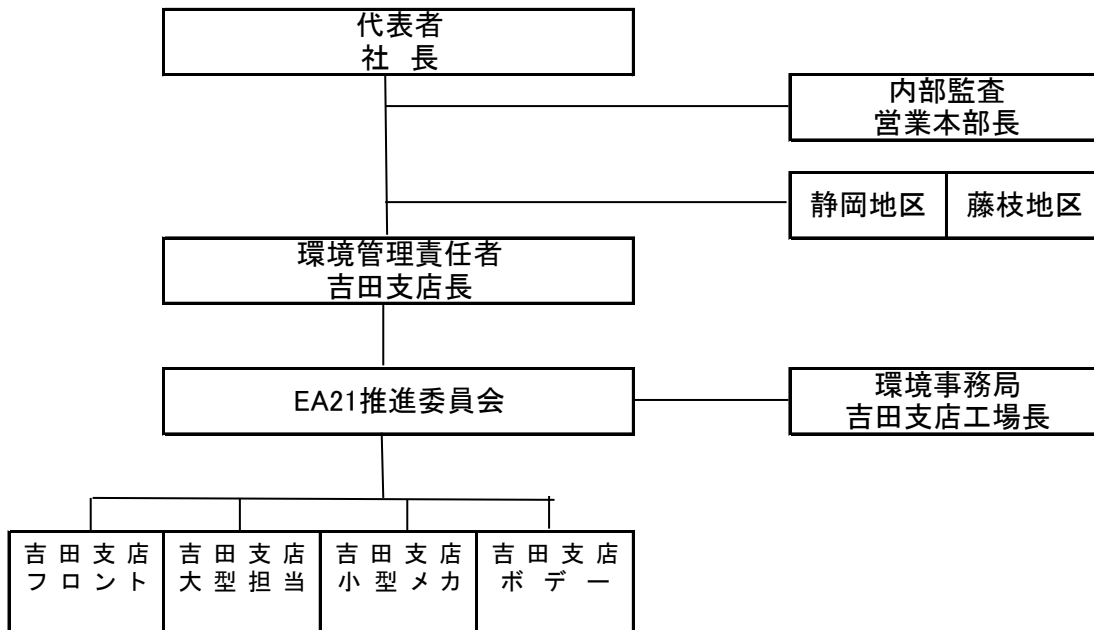
項目		2015年度	2016年度		2017年度	2018年度	2019年度
		(実績) 基準年度	(目標) 基準年度比	(実績) 新基準	(目標) 新基準年度比	(目標) 新基準年度比	(目標) 新基準年度比
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂ 排出係数換算 2014年度0.509	52,651	52,125	52,417	51,893	51,631	51,369
			99.0%	新基準	99.0%	98.5%	98.0%
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	27,070	26,799	23,071	22,840	22,725	22,610
			99.0%	新基準	99.0%	98.5%	98.0%
二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	79,721	78,924	75,488	74,733	74,356	73,979
			99.0%	新基準	99.0%	98.5%	98.0%
産業廃棄物の削減	(kg/年)	2,204	2,182	1,897	1,878	1,869	1,859
			99.0%	新基準	99.0%	98.5%	98.0%
節水	(m ³ /年)	111	110	160	158	157	156
			99.0%	新基準	99.0%	98.5%	98.0%
グリーン購入	(千円)	3,088	3,119	1,818	1,836	1,854	1,873
			101.0%	新基準	101.0%	102.0%	103.0%
化学物質の適正管理	(kg/年)	574.6	568.9	582.4	576.6	573.7	570.8
			99.0%	新基準	99.0%	98.5%	98.0%

(注) 二酸化炭素にLPG, 灯油は入っていません。

営業活動強化の結果、下期に業務量が増え、燃料使用量増と産業廃棄物の増加を懸念したが、燃料削減においてはエコカーの導入と安全指導、産業廃棄物においては分別回収と部品の再利用により削減することができた。半面グリーン購入においては、事故修理の際お客様に理解を得ることができないケースなどもあり、思うような結果を出すには至らなかった。次年度は、他支店同様お客様に納得いただける説明が出来るよう他支店との情報の共有をするなど、正しい知識のもとお客様に最適なアドバイスが出来るよう努めていく。

東海自動車工業株式会社 環境経営システム組織図

吉田地区



役割・責任・権限	
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任。 ・環境経営システムの実施に必要な、要員、設備、費用等を承認。 ・環境管理責任者を任命。 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認。 ・代表者による全体の評価と見直しを実施。 ・環境活動レポートの承認。
環境活動責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理。 ・環境経営システムの実施に必要な、要員、設備、費用等を準備。 ・環境関連法規等の取りまとめ票を承認。 ・環境目標・環境活動計画書を確認。 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告・ ・環境活動レポートの確認。
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局。 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施。 ・環境目標、環境活動計画書原案の作成。 ・環境活動の実績集計。 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施。 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。 ・環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営システムの実施。 ・自部門における環境方針の周知。 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告。 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 ・テスト、訓練を実施、記録の作成。 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施。
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

口環境活動の取り組み計画と評価

吉田地区

取り組み計画	次年度取組 (継続=○取 止め×)	評価 (結果と次年度の取り組み内容)
電力の削減 <ul style="list-style-type: none"> ・室内エアコンは、夏28℃、冬20℃を原則とする ・電気器具の買換時には省エネタイプの機器の導入 ・クールビズ・ウオームビズ運動 (継続) ・昼休みや未使用時の消灯 ・「節電」ステッカーによる節電意識の徹底 ・作業効率向上による総労働時間の削減 	○	<p style="text-align: center;">目標達成</p> <p>基本的な取組は継続しているが効果は薄れている。また、総労働時間削減による電力使用量の削減を図るも目標には届かず。仕事量が増えて来ていることから、次年度も活動は継続し、推移を見ていく。</p>
自動車燃料の削減 <ul style="list-style-type: none"> ・アイドリングストップ ・急加速、急停車の防止 ・冷暖房の控え目使用 ・燃費のよい車の購入 (更新時) ・ドライブレコーダーの導入 	○	<p style="text-align: center;">目標未達成</p> <p>前年度は安全運転への取組指導が継続実施されず、目標未達であったことから、今年度は意識して取組んできた結果、目標を達成することができた。次年度も継続的に指導をしていく。</p>
産業廃棄物の削減 <ul style="list-style-type: none"> ・社内での再使用 ・リサイクル先の開拓 ・分別回収 ・3Rの推進 	○	<p style="text-align: center;">目標未達成</p> <p>前年度課題の再利用 (社外への対応も含めて) 推進に向けての取組をしてきた結果、目標を達成することができた。次年度も効果がでていることから継続的取組をしていく。</p>
節水 <ul style="list-style-type: none"> ・節水の呼びかけ ・水弁取替時に自動水弁を検討する ・洗車、工場清掃時の節水 	○	<p style="text-align: center;">目標達成</p> <p>洗車時の節水など従業員の取組姿勢はできているが、設備の不具合により目標未達。設備の不具合が無ければ、結果は出ていることから次年度も継続していく。</p>
SR・ERの販売 <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットの作成 ・客先へのPR チラシなど ・ホームページへの掲載 	×	<p style="text-align: center;">目標達成</p> <p>パンフレットを作成するなど販売促進に努めてきたが、お客様の意識の中で、まずは、安全が優先され、コストに対する厳しい見方が多く、また、時代の流れか商品への魅力が薄れていることから、販売機会がない。次年度は他支店同様、お客様にも環境にも優しく更に効果がある商品 (エコバッテリー) を推奨販売していく。</p>
グリーン購入 <ul style="list-style-type: none"> ・再生品部品の活用 ・中古部品の活用 	○	<p style="text-align: center;">目標達成</p> <p>再生部品活用推奨・提案が不十分で、目標未達となる。課題として提案技量に欠けている点が挙げられた。対策として、お客様の了解のもと再生部品の取扱となることから、販促ツールの拡充と商品知識の習得による推奨販売のスキルを向上していくこととした。</p>
化学物質の適正管理 <ul style="list-style-type: none"> ・PRTR法の遵守 ・PRTR法に係る化学物質の実績集計 	○	<p style="text-align: center;">目標達成</p> <p>今年度も化学物質が含まれない塗料への移行を進てきたが目標未達となる。課題としてお客様の理解が得られない、代替商品がない、などの要因が挙げられた。次年度は国内外の塗料メーカーから代替品を探す、また、お客様への理解を得られるよう交渉を進めていくこととした。</p>

SR = 車の安全走行記録 (車のフレイトレコーダー)

ER = エンジンリフレッシュ (エコ車検)

□環境関連法規制等の遵守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

主な適用法規等	該当する活動	遵守状況
自動車リサイクル法	使用済み自動車の再資源化に関する法律	遵守
	・フロン回収報告書の確認	
高圧ガス保安法	フロン回収用ボンベの容器再検査	遵守
	・ボンベの現物確認及び検査証確認	
道路運送車両法	保安基準への適合	遵守
	・車検記録簿の記入及び内容確認	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の排出適正処理	遵守
	・廃棄物処理業者との契約書及び許可書確認	
	・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の確認	
消防法	消火設備の設置、維持管理、危険物の取扱と保管	遵守
	・防災通報訓練の実施確認	
	・消防設備の定期点検確認	
水質汚濁防止法	自動式車両洗浄装置	遵守
	・既届出書の確認	
	・油水分離槽の定期点検確認	
浄化槽法	浄化槽の適正使用、定期的な維持管理	遵守
	・浄化槽定期点検確認	
騒音規制法	規制基準の遵守、特定施設として届出	遵守
	・既届出書の確認	
振動規制法	規制基準の遵守、特定施設として届出	遵守
	・既届出書の確認	
労働安全衛生法	塗装ブース、集塵装置などの設置届出	遵守
	・労働基準監督署への届出書確認	
	・健康診断実施状況及び結果表の届出書確認	
フロン排出抑制法	フロン機器「使用時」のフロン漏えい防止措置（業務用冷房空調機）	遵守
	・簡易点検（3ヶ月に一度以上）	
	・定期点検（3年に1回以上）	

環境関連法規制等の遵守状況の評価（2017年2月実施、内部監査人・環境管理責任者他による）の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

今年度の行動指針として、本来事業の改善が省エネ化や産業廃棄物の削減に、延いては環境改善に繋げることを基本とし、環境に優しい整備工場を目指してきた。まずは従業員の意識改善を図り、他人任せではなく各々が率先して取組む姿勢を待たせる為、年間教育計画を立て、管理職を含む全従業員への教育を実施してきた。並行して、外部環境並びに内部環境を加味した実施項目設定の見直しを図り、新たな取組として作業時間の計測による作業進捗管理・作業の標準化を図ってきたが、評価基準の見直しをすることとした。次年度は、各取組に更に具体性を持たせ、評価、改善へとPDCAを回すことができる取組としていく。

（代表取締役 長野 高幸）